

釧路駅周辺の再整備方針案 たたき台 について

釧路駅周辺の再整備の方向性	方向性を踏まえた「再整備方針案 たたき台」検討の3つのポイント		
都心部を車優先から 人と公共交通中心の空間へ	ポイント1 まちとまちをつなぐ RINK	ポイント2 ひととひとをつなぐ RINK	ポイント3 ひととまちをつなぐ RINK

ポイント1

まちとまちをつなぐ **RINK**

3つの「軸」により、まちとまちをつなぐことを重視します
まちの骨格であり、釧路のアイデンティティとなるにぎわい交流軸
【共栄新橋大通⇄北大通⇄幣舞橋】
釧路駅周辺(ゲートウェイ)では、南北のまちをつなぐ街並みと歩行者動線をつくります
軸2 来街者が多く往来する施設やリバーサイドに至る回遊軸
【釧路駅⇄幸町公園通⇄リバーサイド】
軸3 高架下等でまちがつながる東西軸
【寿・白金町⇄釧路駅⇄川北・旭町】
高架下等で東西の歩行者動線を確保し、駅へのアクセスと東西の行き来を円滑にします



ポイント2

ひととひとをつなぐ **RINK**

フォーカルポイントとなる、ひととひとをつなぐ場を創出することを重視します。
都心部まちづくりフォーラムにおける以下の示唆は、釧路駅周辺に求められる本質的な役割が含まれると考えます。
駅は特別性の高い場所。フォーカルポイント(双方が相手の立場になって選ぶ場所)になっている。将来、待ち合わせをしたいと思われる場所になることが重要。
(高野教授講演内容)
鉄道利用だけではなく景色を見に来たり、特に用事がなくても行ってみるかと思える場所になるとよい。
観光案内所のスタッフを務めていた際に最も多く尋ねられたのは2～3時間を潰せる場所がほしい。 原田香苗氏発言内容)



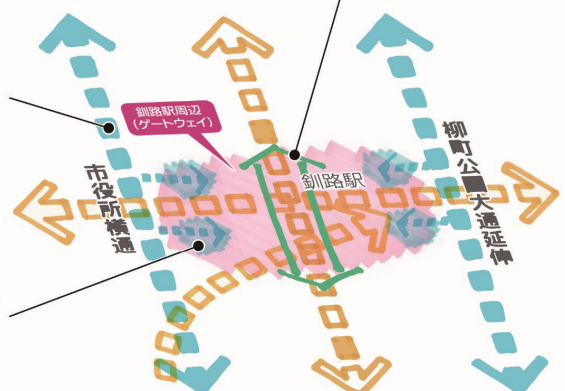
ポイント3

ひととまちをつなぐ **RINK**

ひがし北海道の玄関口として、車でも公共交通でもあらゆる交通手段で訪れやすい、ひととまちを結節する機能の充実を重視します。

新たな南北道路2路線を整備し、車による都心部の往来をスムーズに

車のアクセス利便性を高める結節機能(交通広場等)を充実



釧路駅周辺の再整備方針案 たたき台

